

学校法人稲置学園「2026年度事業計画」

学校法人稲置学園(以下「学園」という。)は、2023年度に策定した「稲置学園 第4次中期計画 学園中期計画・部門別中期計画(以下「第4次中期計画」という。)」に基づき、建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の具現化に日々努めている。

昨今の社会情勢は、生成 AI などの革新的な技術の進展により利便性が増す一方で、地球規模の問題に直面しており、自然災害や気候変動、国際的な政治・経済の不安定さなど、学園が直面する課題は多岐にわたる。中でも、世界的なインフレ、円安に起因する経常コストの増大は大きな負担となっている。さらに、急速に進行する少子化は一層深刻化し、教育機関はもとより教育活動全般に対して直接的かつ重大な影響を及ぼしているが、現時点において有効な解決策は見いだされていない。

学園が、盤石な経営基盤と地域社会・ステークホルダーから支持される教育機関としての地位を得るためには、「教育」の再構築による新たな付加価値の提供によって質保証・充実・発展を図り、多様化する社会課題を解決することができる人材を育成する必要がある。

具体的には、高等教育分野においては知の拠点として教育・研究の質向上を目的とした学部の改組・改変及び加速度的に進歩する情報化社会で活躍する DX 人材の育成であり、中等教育分野においては独自の特色教育、先取り学習、探究活動を含めた新たな中高一貫6年制教育及び高校3年制教育体制の確立、幼児教育分野においては幼保連携6年教育・保育モデルの確立である。また、学園設置校及び外部機関との連携によってもたらされる多様な学びの環境も必要不可欠である。

そのためには、学園で働く役員・教職員の意識及び働き方の改革が必要となる。また、飛躍的な進歩を遂げている ICT 技術を、学園にとって馴染みやすい形で取り込み教育・研究・業務に効果的に活用すると共に、新たな価値を創造する DX の推進が必要不可欠である。

その一方で、学園財政の支出は人件費の増加、止まらない物価の上昇等によって事業を進めるために必要不可欠な財政基盤の安定性に厳しさが増している状況にある。その中において、学園が継続して教育活動を行うためには、役員・教職員が一体となって教育の質保証・向上の努力を重ね現状を打破しなければならない。

また、2025年4月に施行された「私立学校法を一部改正する法律」にて学校法人のガバナンスは更に厳格となり、公共性と自主性をより一層重視した組織体制の確立にも努める必要がある。

学園では、これらの課題を踏まえた上で第4次中期計画において、「幼児・中等・高等教育の各分野で全国的な評価を得ている総合学園となる」という学園長期ビジョンを掲げ、持続可能な経営基盤確立の第一歩を踏み出した。

2026年度事業計画では、学園長期ビジョン実現を目指す第4次中期計画の3年目として、各部門が重点的に取り組むべき内容を以下の通りにまとめたものである。

【金沢星稜大学】

①大学教育組織改革

[取組方針]

18 歳人口減少と本学における教育・活動の質向上、周辺高等教育機関の新設・改組・再編等の施策に対応するため、本学においても教育組織(各学部・学科、教養教育学部)の改組・再編を検討し、大学の運営強化に取り組む。

[期待効果]

大学教育組織の改組・再編による運営強化によって、経営基盤の強化・安定を図ることができる。

②AI 及び DX(星稜 STEAM-D)教育の推進

[取組方針]

学生の AI 活用能力及び AI を補完する人間スキルの向上を目的とする教育内容の検討並びに必要な教育職員の指導力の向上に取り組む。

[期待効果]

AI 活用スキル、AI 補完スキルに資する教育内容を整備し、これらのスキルを身に着けた卒業生を輩出することで、社会における本学卒業生の評価を高め、安定した採用が期待される。

③産学地域連携活動の推進

[取組方針]

産学地域連携の中核としての「SDGs 産学地域連携センター」の機能充実を図り、「金沢星稜大学産学地域連携ポリシー」に基づいて、令和 6 年能登半島地震における震災復興支援活動に取り組む。

[期待効果]

自治体、企業などの多様な主体との連携を強化し、地域の発展に貢献できる人材の育成と地域における人材育成機関としての役割を果たすことにより地域におけるプレゼンスの向上を図ることができる。

④研究活動の高度化

[取組方針]

科学研究費補助金や外部資金等の獲得促進に向けた体制等の整備と Researchmap との連携・充実と併せ、新たな産学連携受託事業や共同研究の仕組み作り並びに間接経費の適切な運用を図る。

[期待効果]

外部資金の獲得件数、共同研究の依頼件数及び奨学寄付金申し出や受託研究の件数増加が見込めると共に、創出した知的財産を社会に還元することで本学の存在価値を高め、教育・研

究から社会貢献までの好循環を構築することができる。

⑤補助金獲得向上に向けた業務の見直し

[取組方針]

経営管理部総務課との連携のもと、補助金獲得要件を検証し、課題の明確化と具体的な改善策を策定した上で計画的に補助金獲得向上を図る。

[期待効果]

補助金要件を満たすことにより大学運営の体制整備及び補助金獲得の向上が見込まれる。

【金沢星稜大学女子短期大学部】

①将来構想の検討

[取組方針]

短期大学部の将来を見据えた最適な定員設定と入学者確保に向けた検討を行うと共に、新たな短期大学部運営の在り方を検討する。

[期待効果]

短期大学部の今後の在り方を含めた運営指針を決めることで、短期大学部単体のみならず学園全体における運営状況の改善が期待される。

【星稜中学校・高等学校】

①新たな中高一貫教育及び高校3年制教育体制の確立

[取組方針]

継続して支持される中等教育の基盤を構築するため、星稜独自の特色教育、先取り学習、探究活動を含めた中高一貫6年制教育(Ⅱ類・Ⅲ類)体制の強化及び新たな高校3年制教育(Ⅰ類)体制を確立する。

[期待効果]

中高一貫教育校としての教育システムと特色ある高校3年制の新たな教育プログラムにより他校との差別化を図り、将来に亘る安定した志願者・入学者の確保が期待される。

②入学者確保に向けた入試制度改革と広報戦略の強化

[取組方針]

情報分析に基づく入試制度改革の検討と広報戦略の多様化によるブランド力向上、本校の魅力・特色の見える化を実現する。

[期待効果]

受験生のニーズを捉え、幅広い層へ訴求することでより多くの志願者獲得が可能となる。

③進路支援体制の強化
[取組方針] 低学年からの進路意識の啓発と ICT を活用した各種情報の共有、保護者や大学等と連携した総合的な進路支援により、生徒一人ひとりの多様な進路実現をサポートする。
[期待効果] 生徒自身が早くから進路を考える機会を増やし、多くの教員が進路支援に多面的に関わることで、生徒の学習習慣の定着を促し、より高い進路目標を持ち続けられる環境を整えることができる。

④中高総合寮の運営改革
[取組方針] 中高総合寮を教育・学習指導の施設として再構築し、入寮生の選抜及び規律の遵守と運営管理体制の強化を図ると共に、入寮生や保護者が満足できる生活環境を提供する。
[期待効果] 寮内での学習習慣の定着や人間教育の場として寮を再構築することにより、本校を志望するための付加価値を高め、より広域からの生徒募集が可能となる。

【星稜幼稚園】

①幼稚園運営の将来構想の確立
[取組方針] 新・星稜幼稚園における質の高い教育・保育活動の在り方と、必要となる施設設備計画を検討する。
[期待効果] 園児・保護者・教職員・地域・卒園生が安全かつ快適に過ごせる環境を確保すると共に、より質の高い教育・保育を提供することで、ハードとソフト両面からの評価を高め入園希望者の増加を図る。

②幼保連携した 0 歳から 6 歳までの教育・保育モデルの構築
[取組方針] 特色あるプログラム「5STARS」を実施しながら、当該プログラムの更なる充実を図るため中・高・大連携体制の構築を検討する。
[期待効果] 他園では提供できない特色あるプログラムや中・高・大連携体制により満足度評価が上がり、入園希望者の増加に繋がる。

【星稜泉野幼稚園】

①教育・保育活動の質担保

[取組方針]

安定した質の高い教育・保育活動を提供するための運営体制を整備する。

[期待効果]

園の特性や強みを活かした教育プログラムを実施することにより、保護者の信頼確保に寄与する。

②星稜幼稚園と連携した新たな幼稚園運営の確立

[取組方針]

星稜幼稚園と連携して、新・星稜幼稚園運営の在り方と優れた教育・保育を実践するための人材育成、組織作りを確立する。

[期待効果]

両園の魅力向上と、組織全体の活性化を促すことができる。

【経営管理部(総務課)】

①補助金獲得体制の構築

[取組方針]

補助金獲得状況を検証し、課題の明確化と具体的な改善策を策定した上で計画的な補助金獲得活動を推進する。

[期待効果]

補助金獲得の向上(外部資金獲得の向上)を図ることができる。

②規程の整備・改廃及び制定

[取組方針]

重要度・緊急性の高い規程等を整備することで、適正かつ迅速な業務遂行を実現しガバナンス強化を図る。

[期待効果]

内部統制システムの整備によって、更なるガバナンス強化を図ることができる。

【経営管理部(財務課)】

①津幡新キャンパスの利活用計画策定

[取組方針]

大学及び経営企画室と連携し、現状のニーズや将来ビジョンを踏まえた新たな施設利用計画を策定し、計画の実現に向けた基盤を構築する。

[期待効果]

学園将来ビジョンの具体化を図ることができる。

②中高教育施設の新増改設

[取組方針]

星稜未来構想プロジェクトに基づき中高及び経営企画室と連携し、教育施設の整備を進める。

[期待効果]

教育施設の新増改設により、中等教育の充実、活性化を図ることができる。

③基幹システムの運用確立

[取組方針]

新会計システムの本格運用を開始すると共に、経費精算システム及び旅費精算システムの段階的な導入を進める。これに伴い関連業務の見直し、業務フローの最適化を図ると共に関連規程等の整備を行う。

【期待効果】

会計システムの整備と関連する精算業務のデジタル化を進め、業務の効率化と正確性の向上を図ることができる。

【経営管理部(広報企画室)】**①広報戦略の整備・立案****【取組方針】**

各部門における広報戦略の見直しと再構成を図る。

【期待効果】

広報戦略の見直しを図ることで、ブランド力の向上につながる。

②寄付金募集の拡充**【取組方針】**

寄付金募集のための戦略及び組織横断的な事業体制の構築に取り組み、新たな企画を立案・実行する。

【期待効果】

寄付金獲得の向上(外部資金獲得の向上)を図ることができる。

【経営企画部(人事課)】**①働き方改革の推進****【取組方針】**

多様な働き方に対する雇用環境等の整備に向け、定年年齢及び再雇用の上限年齢並びに再雇用条件の見直しを行う。また、時間外勤務の管理及び業務効率の向上、並びに適正人員の配置等に向け業務マニュアル等の整備を行う。併せて、業務の効率化や利便性の向上を図るため、雇用契約に関する業務のシステム化に取り組む。

【期待効果】

働きやすく、働きがいのある職場とすることで職員の帰属意識やモチベーションの向上を図ると共に、業務の質的向上と生産性の向上が期待できる。

②新たな人事制度の適正な運用及び改善**【取組方針】**

人事評価制度規程等に基づき人事考課制度及び目標管理制度を適正に運用すると共に課題・問題点を洗い出し改善を図る。

【期待効果】

職員の能力・情意及び達成した業務実績等を公平・適正に評価することで、職員それぞれが能力を発揮できる人員配置や適切な昇格・昇任等による人材の有効活用が図られる。

③人材育成プログラムの円滑な運用

[取組方針]

人事評価制度規程に基づき人材育成プログラムを円滑に運用し、職員の能力開発を図る。プログラムや運用を検証し課題発見と改善を行う。

[期待効果]

職員一人ひとりの資質・能力向上や学ぶ意欲の醸成が期待できる。併せて本学園の目標達成への貢献等、職員にとって働きがいのある職場となることが期待できる。

④5カ年任用計画の策定

[取組方針]

将来構想を踏まえた各設置校の定員数や経営方針・中期計画に基づき、組織体制や適正人数を検証の上、5ケ年の任用計画を策定する。人材要件や雇用形態等を明確にし、5ケ年の任用計画を策定する。

[期待効果]

計画的な任用を行うことで、求める人材の確保と健全な経営を維持できる。

【経営企画部(経営企画室)】

①学園将来構想の推進

[取組方針]

第4次中期計画達成に向けた中間評価を行うと共に、単年度事業計画のPDCAサイクルを運用し、学園将来構想の実現に向けて設置校の取り組みに参画する。

[期待効果]

将来構想に基づく学園像の具現化とその実現に向けた取り組みが達成できる。

②学園全体におけるDX推進

[取組方針]

DX推進を通じて、学園全体を対象に教育・研究・業務・経営の新たな在り方を具体化し、学園将来構想の実現を目指す。

[期待効果]

DX推進による教育及び業務改革により、教育の質向上や業務の生産性向上等が期待できる。

【経営企画部(危機管理室)】

①リスク管理の対応強化

【取組方針】

内部統制とリスク管理の仕組みを形式的運用にとどめず、実務に即して有効に機能させると共に、各部署と役職員一人ひとりがリスク管理を実践できる組織文化を定着させる。

【期待効果】

内部統制と業務運営の一体化や能動的リスク管理の推進により、組織運営の透明性・信頼性の向上とリスク事象の未然防止が図られる。

②コンプライアンスの徹底

【取組方針】

策定した行動指針と推進体制をもとに、全職員のコンプライアンス意識をさらに浸透させ、日常業務の中で自律的に実践できる環境を整える。また、指針や規程の理解から実践への段階的な定着を図り、違反の未然防止と早期発見につながる実効性の高い仕組みづくりを進める。

【期待効果】

全教職員が自ら考えて正しく行動する自律的なコンプライアンス意識を定着させることで、現場でのリスク察知力が高まり、違反の未然防止や早期対応が可能となる。また、職位や業務に応じた多角的な研修を定期的実施することで、倫理意識の向上と共に、組織全体の信頼性を一層高められる。

【情報システム部】

①DX 推進のための安定した基盤整備・環境整備

【取組方針】

大学・短大における教育・研究環境充実に向けた情報設備の整備及び更新。

【期待効果】

継続した情報環境整備を行うことで、学園、キャンパス内で PC やタブレットを活用した付加価値の高い学びや自学自習、学生生活、就職活動などが行いやすい環境となる。

②情報セキュリティ対策事業

【取組方針】

サイバー攻撃対策、BCP 対策への継続的な取組。

【期待効果】

データ保全体制確立、災害時における教育・研究活動の維持を図ることができる。

③学園業務情報化戦略に基づく取組み
[取組方針] 学園の将来ビジョン及び中期目標に基づく業務改善や DX、働き方改革につながるシステム整備。
[期待効果] 業務改善や DX による残業時間の短縮、災害等による業務停止や情報資産喪失等のリスク低減を図ることができる。

④IT 内部統制とガバナンス強化
[取組方針] 設備投資計画に基づく学園全体最適化を目指した情報システムを構築し、セキュリティ維持・コンプライアンスに従い運用する。
[期待効果] 情報システムが職務権限に従った意思決定または承認プロセスを経て設計構築され、適切な権限で PDCA に則した統括管理体制のもとで運用される。